

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局

「日本／ニューイングランドの交流の歴史」 出版企画の報告

世話人 藤崎 博也

昨年10月の会報第12号でご提案した「日本とニューイングランドの交流の歴史」については、9名の会員・会友の方々から11編の原稿がよせられました。

その内容は、学問・芸術・文化・スポーツ・外交と多方面にわたっていますが、いずれも力作で、本会の会員だけではなく、日米の交流の歴史に関心を持つ多くの方々にぜひ読んでいただきたいものです。

そこで関、篠崎、藤盛の各氏に私を加えた4名の出版委員が検討を重ねた結果、The Japan Society of Boston会長Alden氏からすでに寄せられていた英文の1編を冒頭に、また藤盛氏作成の年表を末尾に加えて、右の構成とし、来る11月12日の総会当日までに初版を完成させて、ご希望の出席者に一冊約3千円でお分けできるよう、準備を進めています。また、総会に出席されないでご購入をご希望の方には、下記にお申込み下されば総会終了後にお送りいたします。その場合には郵便料もご負担いただくこととなります。費用は別途お知らせします。

申込先: ㊟278-8510野田市山崎2641

東京理科大学電子応用工学科 藤崎博也

(内容目次)

はしがき

1. A Brief History of Japan and New England
2. ニューイングランドと日本の歴史を彩る人物像
3. 北海道とマサチューセッツ州との交流の歴史
4. 江戸明治期庶民文化の庇護者
ピーボディ・エセックス博物館
5. 日本人は絶滅したか
一種の記録とモースの視点ー
6. MITと日本の架け橋となった人々
7. MITと日本人ー特にMITにおける活躍ー
8. ポーツマス条約を支えたハーバード人脈と
米国人のホスピタリティー
9. もう一人の特使・天心ーボストンでの初年ー
10. 人生ひた走り
ー山田敬蔵の挫折、栄冠、そして献身ー
11. 香道とボストン
ー組香「メイフラワー香」ができるまでー
12. 失われた記憶を訪ねて
ー日本の中のニューイングランドー
年表

総会・懇親会のお知らせ

「日米交流のあけぼの」展関係者との懇親会

日時: 平成11年11月12日(金) 午後6時開場、午後6時半開会
 場所: NEC三田ハウス芝クラブ(JR田町駅、都営地下鉄三田線三田駅下車)
 港区芝5-21-7、電話03-5443-1400
 出席者会費: 当日払い お一人6000円/同伴者5000円
 事前送金 お一人5000円/同伴者5000円
 送金方法: 銀行送金
 普通預金口座

申込み先: 日本ボストン会事務局(同封葉書にて10月31日までに投函してお知らせ下さい)

ご欠席の方をお願い申し上げます。通信費としてご寄付(1000円)をご送金願えれば幸いに存じます。(郵便振替用紙同封)

送金先

お花見に参加して

金井公克・悦子

土居さんご夫妻に誘われて、日本ボストン会のお花見に初めて参加させて頂いた。

土居さんとは私達が初めて買ったマンションで一緒になった。子供達が同じような年齢で仲良くしていたので知り合ったが、親同士も大変気が合ったので急速に親しくなった。その後私達はニューヨークに、土居さんたちは少し遅れてボストンに転勤になった。ボストンとニューヨークは車で3時間ほどの距離で、アメリカ国内でも年に2~3回は家族ぐるみでお互いの家を行き来したり、旅行を楽しんだ。

私達は結局アメリカで7年間暮らして帰国したが、程なく土居さんも帰国され、また日本でのお付き合いが再開した。初めて出会った頃2歳だった娘がすでに20歳を過ぎたので、土居さんとのお付き合いもかれこれ20年近い。

仕事や接待で終日のほとんどの時間を都心で過ごしている私は、週末にはできるだけ人込みをさせている。都会好きの妻や娘達には、少しも東京にいるメリットが活かせないとすこぶる評判が悪いので、

名誉挽回のつもりで参加させて頂くことにした。

当日は良いお天気で桜も見頃、私たちが着いた時にはすでに沢山の人が花見の宴を開いていた。少し暮れかけたうす紫の空にピンク色の可憐な花がとても美しい。ビールを片手に歩き始めると、空の色が徐々に濃くなり桜の花も表情を変えていった。折り返し地点から戻ってくる頃には、すっかりライトアップされ、枝垂れた桜がお堀の水に映ってまさに幽玄の世界であった。アメリカでもハドソン川やポトマック川縁に咲く桜を見たが、このような情緒を感じることはなかった。やはり桜は日本の風土に一番合っているのだろう。

お花見の後はお仲間に加えて頂き、美味しい食事とそれぞれのアメリカ暮らしを通して何か共感できるもののある会話を楽しむことができた。私達夫婦もそろそろ退職後のネットワーク作りを考え始める年。美しい千鳥が淵の観桜会で新しい友人に出会えたことを大変に光栄に思っている。

参加者 29名(77才順)(敬称略):



生田、
金井夫妻、
酒井夫妻、
篠崎夫妻、
芝柳、
関夫妻、
関場夫人、
當間夫人、
高木夫妻、
滝沢、
棚橋、
土居夫妻、
藤崎、
藤盛夫妻、
俣野夫妻
水野、
森夫妻、

ゲスト。

桜会懇親会 於ホテル グランド パレス 1999年4月4日(日曜日)

明年の観桜会は2000年4月2日(日)夕を予定しております。ご予約戴ければ幸いです。

鎌倉アルプス散策

生田英機

土居夫妻が企画された今回のハイキングは、北鎌倉駅からスタートして、鎌倉駅近くの炉辺焼きの店が終着地となる約3時間コース。5月15日、土曜日、駅に午後1時集合。天気が気になったが、参加者のなかに酒井夫人を見つけてすっかり安心。彼女は自他共に認める”晴れ女”。ゴルフで健脚の當間夫人をはじめ、熟・壮年の諸兄に加えて、高木夫妻も参加された多士済々のメンバーであった。

駅に近接する円覚寺、明月院に立ち寄ったあと、15分ほどの歩きでスタート地となる建長寺総門を潜り、拝観料としてお布施をする慣習に皆従う。この寺は経営巧者の部類に入るようだ。隣接地を利用した鎌倉学園の経営も順調と聞く。

総門、三門、仏殿、法堂、庫裏を経て寺の終点に至る所で手入れ、工事が進行していた。資金集めに、拝観料の他に各種の寄進、布施の実態が目につく。座禅会の呼びかけもその一つ。道々の両側には新旧の記念碑が林立している。多くは永代供養碑であるらしい。目についた碑を読んでみた。

昭和4年の寄進額は金壱千円とあり、昭和43年物では何と100万円とアップ。さて今日では幾ら積むのであろうか。

なだらかな寺の歩道も半僧坊権現に至る直前から約230の階段を上がって高度が50メートル高くなる。そこから更に160段の急な階段を上がると、人工見晴らし台に出る。

高木夫妻は終点での再会を約して、この難所を避け平坦地の歴史散歩に切替えられた。健脳者である。

見晴らし台を過ぎると天園の茶店まで、腐葉土や根株が浮き出た山道、苔むした岩道が緩やかにアップダウンしながら続く。

途中ゴルフコースの裏手を経て、一気に瑞泉寺に降りた。その間の山道は緑のトンネルになっている。

東京、横浜で混雑し、鎌倉で賑わい、寺境内の散策ですれ違った人の群れも、このトンネルを通過中はさすがまばらになる。

都会近郊のハイキングコースの魅力は、この急な人の流れの変化にあるのかもしれない。

賑わいの鎌倉宮、鶴岡八幡宮は目をやる程 (* 〆)

次回歴史・ハイキング合同の会:10月23日(土)午後1時JR桜木町駅改札口集合。横浜開港資料館見学。同封チラシ参照。

ゴルフ会のお知らせ

春の懇親会、藤盛さん初優勝!

今年春のコンペは4月22日、入間カントリークラブで行われました。4組13名のご参加でした。

その結果は、懇親ゴルフ会第1回より連続出場されている藤盛さんが初優勝されました。また奥様も3位に入賞され、夫婦揃って表彰台に立たれました。

順位、	氏名、	知	HDCP	NET
優勝:	藤盛紀明	102	28	74
2位:	酒井一郎	105	30	75
3位:	藤盛富美子	115	40	75

秋の懇親会は11月5日(金)!

今年第2回目のゴルフ・コンペは11月5日、名門・松尾カントリークラブで開催されます。

5組(20名)の枠を確保してありますので、ぜひご参加ください。会員の特別のご配慮で、参加者は会員扱いの負担でプレー出来ます。参加費はいつもと同じ5000円(賞品/パーティ代)です。

費用: 17,000円見当(参加費、プレー代、昼食代、パーティ代)。

地図: 参加者宛に詳しい案内を差し上げます。お申込みは下記まで。(締切り10月15日)。

幹事 藤盛紀明

近藤宣之

事務局

(注. 明年ゴルフ会開催予定: 4/20(木)、10/26(木)。)

ボストンガイドブック好評

今年の春に注文した48冊は、現在在庫が7冊になっております。ご入用の方は至急お申し越し下さい。

*度にして、終着地の炉辺焼きの店に入る。

私などその終着地での集いが魅力で、”歴史を飲む会”との区別が良く分からぬまま参加しようとしたが、打ち合わせが記憶に残る一日であった。

参加者(敬称略、順不同)高木夫妻、藤盛夫妻、酒井夫妻、土居夫妻、篠崎夫人、當間夫人、近藤夫人、生田。計12人。

名古屋ボストン美術館美術鑑賞ツアー

美術の会 酒井一郎

名古屋ボストン美術館の開館に伴い、日本ボストン会では7月10～11日に名古屋を訪問しました。(会報第11号・13号参照)

参加者は10日午前中にJR金山駅前の南山ビル内にオープンされた「ホテルグランコート名古屋」にチェックインし、隣接して併設された名古屋ボストン美術館の展示品を各自が任意に鑑賞しておくことから始まりました。

第一会場では「モネ、ルノワールと印象派の風景」と題して印象派を中心とする19世紀のフランスの風景画が第一回企画展として本年9月26日まで展示され、第二会場では「エジプト・ギリシャ・ローマ 古代地中海世界の美術」と題して2004年3月までの5年間の常設展が開催されていました。また、この一部には日本コーナーが設けられていました。

午後2時からホテルと同じビルの14階の名古屋都市センター会議室において、名古屋ボストン美術館小倉忠夫館長からご多忙の中を約1時間に亘って、20年間の展示契約に基づく同美術館の開館に至るまでのご苦労話を伺いました。20年経過後の契約については、17年目に協議するとのことでした。

美術館の運営方法についてのお話では、展示品についてみると、日本では収集品の個人鑑賞が中心であり、米国型(財団による美術品収集)やフランス型(国費による美術品収集)の如く一般展示に積極的でないために、所有に伴う運営上の方針が異なっているとお話でした。

日本の美術館には美術品の手持ちがないばかりに、



この両国の中間型として借り入れて展示するやり方で独自の運営方法を模索することになるのではないかと、所有していないために著作権上の制約が課せられ、作品の模写が認められない不便が残される等示唆に富むお話も伺うことができました。

館長のお話の後で、ボストンでは展示品がくすんで見えるのに、名古屋における展示品が明るく鮮やかにみられるとの感想にたいして、小倉館長から「名古屋では年代別の配置がなされるとか、準備に数カ月を掛けてクリーニングの上コーティングをかける等の準備もしている」とのお答えがあり、納得する経緯がありました。

その後の懇談会では、藤盛さんから今回お世話になる地元、牛毛神社の久米生光禰宜、清水建設(株)開発部の内藤克己部長をご紹介戴き、熱田神宮のことや、南山ビル内に名古屋ボストン美術館を併設することに伴う工事上のご苦労話(地震・火災対策としての別システムの設置等)のお話も伺いました。

午後4時から11階にある「名古屋都市センターまちづくり広場」にて、同センターの中國主査から、名古屋市の全貌を床に作られた地図を対比しながら、センターの事業(まちづくりについての調査・研究、情報収集・提供、人材育成・交流)の概要、および清洲城に始まり現在の名古屋城に至る城作りの歴史的な推移や、戦後に実施された大規模な都市計画のお話を伺いました。

午後5時半よりはホテルの29階にある中国料理「花梨」にて懇親晩餐会を開き、美味しい広東料理を楽しみました。この会食には久米さんご夫妻、久米さんご友人の西田充宏さん、および内藤さんもご参加戴き、夫婦が別れたテーブルに座る等の工夫もされたこともあり、会話は賑やかになり、記念写真も撮り、盛り上がりしました。

午後8時半からは、久米さんのご配慮にて「カフェ アトリウム」に二次会が設けられ、チェロやピアノによる懐かしい歌曲の演奏がありました。最後は篠崎夫人の美声による「荒城の月」でお開きになりました。

翌朝は、朝食後の午前8時過ぎにホテル前からジャンボタクシーにて昔の東海道宮の宿から桑名(※7

名古屋ボストン美術館美術鑑賞 (つぎ)

*に渡る「七里の渡し」の史跡を見物しました。この後、久米夫人のご案内で、事前にお手配戴いた熱田神宮に昇殿参拝し、宮司から6万坪の内その半分以上が、伊勢神宮と同じ様に、昔からの禁足の聖域として管理されているとお話しも伺いました。

午前9時には熱田神宮宝物館を訪れ、ご神体が草薙剣であることも関係し、収蔵品の大半が奉納された刀剣で占められていることもあり、時代による作風を比較しその変化についてのお話を学芸員の方から伺いました。

この後、一度ホテルに戻り、各自がチェックアウトを済ませて、再びジャンボタクシーに戻り、午前10時過ぎに徳川美術館を見物、徳川家代々の遺品を中心とする国宝、重要美術品を鑑賞いたしました。

この後短い時間でしたが、名古屋城の正門前に今春オープンした名古屋能楽堂を訪れ、話題になっている能舞台の背景の若松の絵を拝見しました。

最後は名古屋駅前のうどんや「山本」にて、地元の名物「みそ煮込みうどん」を賞味し解散しました。

名古屋ボストン美術館開館に伴い、美術鑑賞と小倉館長の講話を伺うということでスタートした名古屋旅行が、計画段階で日本ボストン会メンバーの名古屋在住の久米さん、清水建設名古屋支店勤務の内藤さん(藤盛さんからのご紹介)と共に、内容の濃いものに仕立て上げられました。また、この計画に沿って名古屋在住のお二方により、関係者へのお手配などの事前準備がなされ、各自が10日朝、名古屋入りし、美術鑑賞を終えた後、ほぼ全員が夕刻より”音楽とドリンクの夕べ”による歓迎を受けました。

翌日も久米夫人、内藤さんのご案内で、名古屋の名所をより深く知り、楽しませて戴きました。

一同満足して帰京しましたことを、小倉館長をはじめ、中園主査、久米さんご夫妻、内藤さん、それに二次会のお世話を戴いた西田さんに、紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。

参加者(敬称略) 酒井夫妻、篠崎夫妻、高木夫妻、土居夫妻、藤盛夫妻、松本、俣野夫妻、茂木夫妻、矢萩、ゲスト1人。17人。

新世紀へのバトンタッチ

ボストン日本人会
会長 小久保 武

私は今春日本人会から、次の会長を務めるよう要請を受けましたが、身に余る大役ですので当初固くご辞退申し上げました。

しかし、その後他に都合のつく方がおられないとの理由で再度の懇請に接し、我儘を続けることは、かえって日本人会の活動に支障を招かぬとも限らないと反省し、非力を顧みず、謹んでお受けすることに決しました。

私は1969年に渡米し、72年から日本人会会長になられた増淵先生の下で、7年間、会報の編集・発行および日本語学校の創設と運営に携わりました。運営事務局長という名で担当した日本語学校の方は、久野会長に代わった後、83年に日本からの専任校長派遣が実現するまで続けさせて頂きました。

その後は私事にかまけ、お付き合いを怠けておりましたが、一昨年田中会長のお手伝いをさせて頂いたのが縁で、再び日本人会の活動に関わるようになりました。久しぶりの里帰りと言えなくもないのですが、しかしこの15年の間にボストン日本人会の環境が驚くほど変化していることを改めて痛感いたしました。

たとえば、在住者の人口や、鮎屋さんの数が増えて、日本書店が若者たちで賑わったことがそれです。この種の変化だけであれば別に驚くこともないのですが、80年代以後の変化には、それ以前とは違った深いものの反映があるような気がします。それが何なのか凡愚の視力の及ばぬ所ですが、要するに新世紀への胎動と受け留めるべきかと存じます。

こうした時期に私のような旧世代の者が表にたちますのは、必ずや時代遅れの誹りを招くと思います。しかしまた私は、新世紀とともにボストン日本人会にも必ず新世代の新鮮なリーダーシップが生まれることを信じ、その人たちへバトンタッチをすることが私の使命であるとも心得ます。どうぞよろしくお力添えの程をお願い申し上げます。

(ボストン日本人会会報 1999年8月1日発行 No. 96より転載)

Sargentの夏(1856-1925)

1999年夏、Bostonで開催されたJohn Singer Sargent 展はことのほか多くの人々の共感と呼んでいた。Public Library, Museum Fine Arts, Harvard Fog Art Museum そしてIsabella Stewart Gardner Museumではそれぞれのテーマで人々を魅了していた。

まさに多くのBostonianはSargent突然の帰国を喜ぶかの様であった。会場はいつもの夏より訪れる人が多く、到る処で賞賛のささやきが聞かれた。

1856年、Sargentはイタリアのフローレンスに生まれた。彼の父はPhiladelphia で成功した外科医、母は水彩画家であった。1854年初めから、両親はシーズン毎にイタリア、ドイツ、フランス、そしてロンドンへと移り住んだ。

1874年、Sargentはパリで絵の勉強を始めた。

Sargentは自分自身アメリカ人であるという意識が常にあったが、20歳になるまで祖国の地を踏むことがなかった。1876年、母と一緒にアメリカ市民権を得るためにPhiladelphiaに戻っている。

1879年、公式のトレーニングが終わった後、ヨーロッパへと旅立った。特にベニスに魅せられた多くの作品を生み出した。これらの作品は、その頃、多くの画家が好んで描いた光輝く鮮やかな色調と異なり、Sargentの描く作品は全体的に暗く、常に光に鋭敏、そして設定された場所の雰囲気に関心をみせていた。暗いベニスの宮殿の一室に二人の婦人が中央に見える。石の床の中央に黄色く塗られた一筋の太陽の光が目に入る。(Venetian Interior, 1880-

82) (Fig.1)。彼のこの頃の多くの作品はスペインの画家Velázquezに影響された。

1886年、ロンドンに移った。彼の描いた作品の中で最も代表すべき作品は、Carnation, Lily, Lily, Rose, 1885-86, (Fig.2) である。

自然の光とランタンの光に照らされたバラの花が明るく、のびのびと描かれている。パレットから選び抜かれた明るい色彩の効果が、見る人の好感を呼んだ。

1887年、Bostonで開かれたSargentの個展は、多くの批評家の称賛を浴びて幕を閉じた。

SargentがBostonで描いた多くの作品の中で最も記憶すべき肖像画は、Boston Symphony Orchestraの創始者でもある博愛主義者Henry Lee Higginson, 1903, (Fig.3)の肖像画である。ちょっと崩したポーズをとっているが、尊厳をもって描かれている。彼の膝にCivil WarのマントがかけられているのはSargentの意図するところでしょう。過去に幾度となくチャレンジしたRembrandtとVelázquezの画法をこの絵にみることができる。

シーズン毎に、各国へ旅立ったSargent。国外居住アメリカ人画家であった彼の描く肖像画、壁画、風景画、水彩画と多くの作品は、19世紀から20世紀にかけてアメリカ国内の画家に大きな影響を与えた。

7月23日、Logan Airportに着いた時の蒸し暑さは、かって味わったことのない程でした。カラカラ陽気の続いているBoston。そんなBostonに少々うんざりしているBostonianの心に、今夏のSargent展は少なくとも清涼感と大きな喜びを与えたことでしょう。

美術愛好会 酒井典子 (Aug. 30, 99)

Fig. 1.



Fig. 2



Fig. 3



「日米交流のあけぼの」展 -黒船きたる-

関 直彦

日米交流の歴史に深くかかわることとして、今年200周年を迎える画期的な出来事が二つあります。一つは歴史の教科書に載っていないのであまり知られてませんが、ペリー提督の浦賀来航に約半世紀も遡る1799年、米国の船が初めて日本に來航して、まさに第一歩を印したことです。

当時、フランスに占領され属国バタビヤ共和国となったオランダは、長崎の出島などの2、3を除いて殆どの植民地をイギリスに奪われてしまいます。そこでオランダは長崎の権益を守り、またイギリス海軍と和掠船による襲撃から逃れるために、多くのアメリカ商船をチャーターしてオランダ東インド会社の拠点、ジャワ島のバタビアと長崎間の交易輸送に当たさせたものです。その時に米国船が長崎から持ち帰った民芸品や見聞録が、ピーボディ・エセックス博物館に残されています。

もう一つは、そのピーボディ・エセックス博物館の前身である東インド海洋協会が同年、マサチューセッツ州セーラムに設立されたことです。同博物館は大森貝塚で有名なモースが長年館長を勤めており、江戸末期から明治にかけての膨大かつ貴重な日本民具コレクションは世界一を誇っています。

この二つについて総会目途に出版予定の「日本・ニューイングランド交流の記録」の中で詳述します。

こうした日米交流200周年を記念して9月28日から12月12日にかけて、江戸東京博物館において、同館とピーボディ・エセックス博物館などの主催に

よる「日米交流のあけぼの」展-黒船きたる-と題する特別展が大々的に催されます。数多くの展示品がセーラムから里帰りします。日米の絆を深める催しとして、ぜひお出掛け下さい。

◆展示構成:

- I 西洋とのであいーポルトガルとオランダ
- II 海運都市セーラムーその黄金時代
- III アメリカ船、長崎出島に入港す
- IV 太平洋の捕鯨をめぐる
- V 開国という時代
- VI 異文化へのめざめ

◆講演会(申込み多数の場合は抽選。各会、100名)

(1) 10月22日(金)18:30-20:30

「欧米に渡った輸出漆器」加藤寛(東京国立文化財研究所)

(2) 10月23日(土)13:30-15:30

「モースと大森貝塚」西岡秀雄(大田区立郷土博物館長)

(3) 10月28日(木)18:30-20:30

「アメリカ傭船の時代」金井圓(東大名誉教授)

(4) 10月29日(金)18:30-20:30(同時通訳付き)

「19世紀セーラムの日本貿易と航海」ピーター・フィフ

(5) 11月3日(水)13:30-15:30

「コレクションにみる日米異文化理解あれこれ」

小林淳一(江戸東京博物館学芸員)

(6) 11月26日(金)18:30-20:30

「ペリー日本遠征艦隊とシボヤ」宮坂正英(長崎純心大学助教授)

(7) 12月4日(土)13:30-15:30

「描かれたアメリカ人」木下直之(東大助教授)

「日米交流のあけぼの」展 -黒船きたる-

The Dawn of Japanese and American Exchange

期間: 1999年(平成11年)9月28日(火)~12月12日(日)

休館日: 毎週月曜日、但し10月11日(月)は開館、翌12日は休館

開館時間: 午前10時~午後6時(木・金は午後8時まで)、入館は閉館の30分前まで。

場所: 江戸東京博物館、㊟130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

問合先: 「日米交流のあけぼの」展事務局 ☎03-3626-9974

講演申込方法: 葉書にて江戸東京博物館宛に希望日、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して申込。

交通機関: JR総武線両国駅(秋葉原駅寄り出口)下車、駅前

主催: 東京都、東京江戸博物館、ピーボディ・エセックス博物館、朝日新聞社

特別協力: 大田区

協力: 日本航空。後援: 外務省・アメリカ大使館。特別協賛: Fidelity Investment。

幹事会報告

1999年6月15日(火) 出席者15人

*高木代表幹事

ハイキングは楽しかった。入会案内を検討しましょう。

*歴史の会報告

シルク博物館が修理中。次回は10月に予定。

*ハイキングの会報告(5月15日)(別項参照)

鎌倉アルプス。秋未定。来春多摩森林科学園。

*音楽の会

7月18日(日)中野翔太君のピアノ演奏は好評待ちの状況。

*ゴルフの会報告(4月12日)(別項参照)

人間カントリークラブ。次回は11月予定。

*美術の会報告(7月10-11日)(別項参照)

名古屋ボストン美術館美術鑑賞ツアー。

*お花見の会(4月4日)(別項参照)

*歴史出版計画報告

原稿は集まった。夏休みにコピーを校正予定。

*次号会報10月初に発行予定。(原稿締切8月20日)

*関直彦氏の新幹事就任を確認

日米交流200周年記念展覧会(別項参照)

於江戸東京博物館(9月18日-12月12日)

*関係団体活動報告

北海道MA協会(山下健一さんが退任)

名古屋ボストン美術館(美術館は大盛況)

京都ボストン交流の会(事業案内の報告)

*ボストンガイドブック48冊入荷。在庫13冊。

*新会員入会(2月以降1人)小島茂義さん

1999年9月10日(火) 出席者16人

*総会開催準備打合せ。

-場所は10月1日に確定する。

-ピー・エックス博物館関係者は9月28日来日し10月末帰国の旨報告あり。

-2000年総会開催日は11月10日(金)に決定した。

*観桜会

明年の開催日を4月2日(日)と決定した。

*歴史・ハイキングの会

次回は横浜開港資料館の見学。(10月23日)

*音楽の会

7月18日、中野翔太君のピアノ演奏好評であった。

*ゴルフの会(次回11月5日金曜日、松尾カントリークラブ)

明年の開催日は4月20日(木)、10月26日(木)。

歴史出版計画の現状報告。(別項参照) ()

京都ボストン交流の会の活動

「ボストン親善訪問団」の派遣

京都市はボストン市との交流40年記念行事として、本年10月6日より12日まで「ボストン親善訪問団」の派遣を計画しています。

◇旅行スケジュール

10月6日Wed 午後 関西空港発、同日ボストン着。

7日Thu 夜 ボストン竹中真由美と藤陰静枝社中の共演コンサート鑑賞。

8日Fri 夜 ボストン市長主催歓迎レセプション参加。

9日Sat 午後 ボストン子ども博物館にて伝統工芸・文化紹介、レセプション参加。

10日Sun 自由行動

11日Mon 午前 ボストン発、神戸経由帰国へ

12日Tue 午後 関西空港着、解散。

◇参加費用お一人 239,000円

◇参加実施人数 100人、最小催行人数40人

◇取扱 JTB団体旅行京都支店

(担当:)

米人教師ホームステイ先募集

12月4日(土)~12月5日(日)

メドフォード教師2名、

ブルークライン教師1名

例年通り男性1名、女性2名の小学校の先生方が来日されます。11月30日からの一週間の滞在の内の1泊ですが、皆様の家庭を見せて戴けませんか。今年のホームステイ先を募集します。受入れ可能な方は、日本ボストン会事務局までご連絡願います。

(*)

*名古屋ボストン美術館ツアー報告。(別項参照)

*ボストンガイドブックの頒布状況報告

在庫7冊。追加注文の現地問合せ承認した。

*関係団体情報の報告。(京都:別項参照)

*会報製作状況の報告。発送10月8日を予定。

*会計状況の報告。

*入会案内(改訂案)審議。

*新会員(4月以降)1名(幸野真士さん)。

*幸野真士さんの新幹事就任を確認。

*次回の幹事会は12月6日(月)。